

建築専門誌・建築一般誌および SNS からみる表現特性としての建築写真のあり方に関する研究 その 1 被写体の表現特性

A Study on the Expressive Characteristics of Architectural Photography in Specialist and General Publications and Social Media Part 1: Expressive Characteristics of the Subject

D: 建築計画 8. 建築社会システム 1. 建築社会システム

建築写真

建築雑誌

SNS

イメージ

準会員 ○浦上 穰*

Joe Uragami

正会員 脇坂 圭一**

Keiichi Wakisaka

1. はじめに

1-1. 研究の背景

建築のイメージを伝える際に重要な役割を果たしてきたのが「写真」である。コロミーナは「建築家の作品もまた、つねに写真や印刷物を通して知られるようになっていた。」と述べた(文 1)。建築は実空間だけでなく、写真という非物質的な情報も介することで、そのイメージを波及させているといえる。近年では、SNS を用いて、誰もが建築イメージを共有できるようになり、これまで設計者や写真家から読者へと一方向的に行われていた情報伝達のあり方は、ユーザーが自ら写真を撮影し発信、他のユーザーとイメージを共有しあう、多方向的なコミュニケーションへと変化した。建築の魅力を広く一般に伝えることを理念に企画された「みんなの建築大賞」(文 2)は、SNS を活用して建築イメージを伝達するな試みといえる。一方で、多木が「写真に写った事態と実際に起こった事態の等価性は、ある程度認められるのであるが、同時にそれはどうにでも細工できるたぐいのものである」と述べた(文 3)ように、建築写真は、その構図や視点などの選択によって、そのイメージを大きく変化させるといふ点において、単なる記録媒体ではなく、建築の見え方や評価を左右する表現手段であるといえる。

1-2. 本研究の目的

本研究では、建築専門誌と建築一般誌、SNS における建築写真を対象として、個々の建築写真に示される被写体の表現特性から、撮影者がもつイメージ、認識の差異について明らかにすることを目的とする。

1-3. 既往研究の到達点と本研究の位置付け

建築写真を対象とした、建築空間の表現に関する研究としては、特定の建築家が手掛けた作品を対象に、建築誌および作品集内の写真から複数の撮影者ごとの表現特性を明らかにしたもの(文 4)、専門誌および一般誌を対象に、それぞれが提示する建築イメージを明らかにしたもの(文 5)、SNS に投稿された保存改修建築の写真を対象に、改修前後での撮られ方の変化を検証したもの(文 6)、建築誌に掲載された写真の葉数やサイズ、その掲載順から、紙面において建築空間がどのように伝達される

かを明らかにしたもの(文 7)などがある。これらに対し、本論文は、専門誌から一般誌、SNS までの範囲における建築写真を横断的に検証するものである(図 1)。

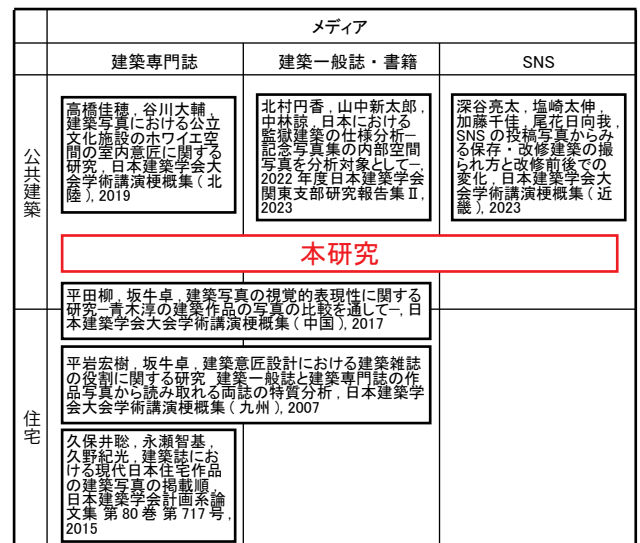


図 1. 既往研究と本研究の位置付け

1-4. 研究の背景研究の構成

本研究は全 5 章で構成され、3 章以降で分析・考察を行う(図 2)。

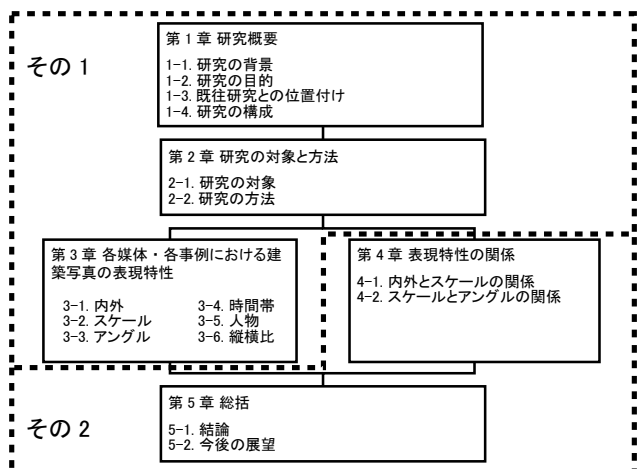


図 2. 研究の構成

* 静岡理科大学 理工学部建築学科 学部生

** 静岡理科大学 理工学部建築学科 教授、博士(工学)

Student, Department of Architecture, Shizuoka Institute of Science and Technology.

Prof., Department of Architecture, Shizuoka Institute of Science and Technology, Dr. Eng.

2. 研究対象と研究方法

2-1. 本研究の対象と用語の定義

本研究は、建築写真を調査対象とし、その収集媒体の対象として建築専門誌「新建築」誌、建築一般誌「Casa BRUTUS」誌、SNS「X」を用いた。

調査対象事例の選定にあたっては、まず「みんなの建築大賞」における「2024 この建築がすごいベスト 10」「2025 この建築がすごいベスト 10」に選定された 20 事例を初期対象とし、その中から「新建築」および「Casa BRUTUS」への掲載が確認でき、さらに「X」において 20 枚以上の建築写真が投稿されている 5 事例を最終的な調査対象とした(表 1)。SNS からの写真収集については、X の検索機能を用いて、愛称、略称を含む建築の名称を検索し、収集を行った(図 6)(注 1)。

専門誌から収集された 68 枚、一般誌から収集された 36 枚、SNS から収集された 784 枚の合計 888 枚を調査対象とした(表 1)。

2-2. 本研究の方法

収集された資料写真について、被写体の内容に基づき、以下の要素に分類した(表 2)。被写体の内容とその括り取りはスケールとし、全体(XL、L)、部分(M、S)の 4 段階に分類した。全体スケールでは建築を全体像として、部分スケールでは建築の細部に注目がなされていると考えられる(図 3)。被写体に対するカメラの角度をアングルとし 4 種に分類した(図 4)。正対(正対、見上げ見下げ)は建築を被写体として意識的に、斜め(斜め、斜め見上見下)は建築や空間の奥行きを捉える意識が表れると考えられる。

表 2. 表現特性

	名称	要素
1	内外	外/内
2	スケール	XL/L/M/S
3	アングル	正対/斜め/見上見下/斜め見上見下
4	時間帯	昼間/夜間
5	人/物	人あり/物あり/なし
6	縦横	縦/横/同

表 1. 研究対象

	建築	略称	設計	用途	竣工年	所在地	調査期間	専門誌(枚)	一般誌(枚)	SNS(枚)	計(枚)
1	SIMOSE	《下瀬》	坂茂 建築設計	美術館	2023	広島県 大竹市	2023.01.01~ 2023.02.28	23	5	137	165
2	太宰府天満宮 仮殿	《太宰府》	藤本壮介 建築設計事務所	神社	2023	福岡県 太宰府市	2023.01.01~ 2023.02.28	7	7	412	426
3	地中図書館	《地中》	中村拓志&NAP建築 設計事務所	図書館	2022	千葉県 木更津市	2023.01.01~ 2023.02.28	10	5	23	38
4	小千谷市ひと・まち・文化共創拠点 ホントカ。	《ホントカ》	平田晃久 建築設計事務所	博物館	2024	新潟県 小千谷市	2024.01.01~ 2024.02.29	17	14	72	103
5	豊田市博物館	《豊田》	坂茂 建築設計	博物館	2024	愛知県 豊田市	2024.01.01~ 2024.02.29	11	5	140	156
								68	36	784	888

建築 + 周辺 XL		建築 + 環境		内部 + 外部景観
建築全体 L		ヴォリューム		内部全体
建築部分 M		ファサード部分		内部部分
建築詳細 S		サイン		ディテール

図 3. 写真のスケール

正対		正対		見上げ / 見下げ
斜め		斜め		斜め見上げ / 斜め見下げ

図 4. 写真のアングル

人物の有無		人あり		物あり		なし
-------	--	-----	--	-----	--	----

図 5. 人 / 物の有無

SIMOSE since:2024-01-01 until:2024-02-29 filter:images		

図 6. SNS における写真収集の検索条件

04 ホントカ	内外 : 内部 スケール : M アングル : 斜め 時間帯 : 夜間 人 / 物 : なし 縦横 : 縦
---------	--

図 7. 分析例

3. 各表現特性の傾向

3-1. 内外

〈下瀬〉では、専門誌はほぼ同程度（外 12、内 11）、一般誌は内部にやや偏重（外 2 内 3）、SNS は外部に偏重（外 86 内 51）がみられた。〈太宰府〉では、専門誌は外部にやや偏重（外 5 内 2）、一般誌は内部にやや偏重が、SNS は外部に大きな偏重（外 393 内 19）がみられた。〈地中〉は 3 媒体すべてにおいて、内部の割合がやや多い傾向が共通していた。〈ホントカ〉は全媒体共通で内部の割合が高い。一般誌および SNS においては全体の 8 割以上が内部の写真であった。〈豊田〉では、専門誌と SNS は外偏重、一般誌においては内部に多くの注目がなされていた。

3-2. スケール

〈下瀬〉では、専門誌は XL から順に多く、一般誌では M と L がすべてを占め、SNS においては M が多く、3 媒体の中で S の割合が最も高かった。〈太宰府〉は、専門誌と SNS は全体スケールが 7 割を占める内訳が類似。一般誌は M と S の部分スケールが過半数を占める。〈地中〉は、全体と部分の比率は専門誌と SNS では同程度、一般誌においては部分にやや偏重であった。〈ホントカ〉においては全体と部分の比率は専門誌では全体偏重、一般誌は同程度、SNS はやや部分偏重。〈豊田〉は専門誌における XL の割合が他 2 媒体と比べて高いが、部分に比べて全体がやや多い内訳は 3 媒体共通している。S のスケールは SNS でのみ確認された。

3-3. アングル

〈下瀬〉は、専門誌と SNS について、正対と斜めの比率こそ異なるものの、見上げ / 見下げ、斜め見上げ / 見下げの内訳が類似していた。一般誌については斜めの比率が高い。〈太宰府〉は、専門誌および一般誌では、正対と斜めが過半数を占めるが、SNS においては他 2 媒体では 1 割強程度であった見上げ見下げ、斜め見上げ見下げのアンギュルが全体の半数弱程度存在し、アンギュルの傾向は比較的均一であった。〈地中〉は、専門誌、一般誌では斜めが多く、SNS においては、他媒体では 1~2 割程度であった正対と見上げ / 見下げのアンギュルが多く確認された。〈ホントカ〉はすべての媒体で、斜めが過半数を占め、次点で正対という割合が共通、見上げ / 見下げが存在したのは SNS のみであった。〈豊田〉の一般誌はすべて斜め。専門誌と SNS は斜め、次点で正対、見上げ / 見下げと斜め見上げ / 見下げが同程度という割合が共通していた。

3-4. 昼夜

すべての事例において昼間が殆ど全てを占めたが、SNS においては〈地中〉〈ホントカ〉〈豊田〉にて夜間の写真が数枚確認された。

3-5. 人物

〈下瀬〉は、人物なしが過半数を占めるのは 3 媒体共

通していた。一方で SNS は人物ありの割合が最も高く、物を写した写真が 6 枚確認された。一般誌はすべて人物なしの写真で構成されていた。〈太宰府〉の一般誌は、1 枚を除いてすべて人物なし、専門誌と SNS では人物ありが 7 割以上を占めた。〈地中〉では、人物ありの写真は専門誌では全体の 1 割、SNS では 2 割弱、一般誌では確認されなかった。〈ホントカ〉は 3 媒体共通して、人ありが 4 割強、人物なしが 6 割弱という結果となった。〈豊田〉は専門誌と SNS にて人ありが 3 割程度、一般誌においてはすべて人なしであった。

3-6. 縦横

〈下瀬〉では横方向が過半数を占めた。一般誌はすべて横方向であった。専門誌は縦構図の写真が数枚確認されたが、SNS においてはその倍程度の割合で縦写真が存在した。〈太宰府〉においても、縦写真が占める割合が少ないのは 3 媒体共通だが、一般誌において、正方形の写真が確認された。〈地中〉は一般誌と SNS においては縦写真の割合の方が高く、SNS には正方形の写真も確認された。〈ホントカ〉は共通して横方向の割合が高く、一般誌と SNS においては 7 割強を、専門誌では 9 割弱を占める。〈豊田〉は一般誌は縦方向の割合が 6 割と横よりも高く、専門誌と SNS では横方向が 8 割を占める。同比率の写真は確認されなかった。

3-7. 結論

その 1 では設定した表現特性の傾向を、事例ごと、媒体ごとに明らかにした。

- ・専門誌、一般誌では横構図や人物なしの写真が多く、建築を安定した対象として提示する傾向があった。
- ・SNS では外部・人物・多様なアングルが多く、来訪者自身の体験的視点が反映されていた。

注釈

注 1) 収集期間については、対象事例が「この建築がすごいベスト 10」に選定された年の 1 月から 2 月末日までを調査期間と設定した。具体的には、2023 年度ノミネート事例については 2023/01/01 ~ 02/28、2024 年度ノミネート事例については 2024/01/01 ~ 02/29 の期間を収集対象とした。

参考文献

- 文 1) ピアトリス・コロミーナ，マスメディアとしての近代建築，鹿島出版会，1996
- 文 2) みんなの建築大賞 <https://bunganet.tokyo/award/>
- 文 3) 多木浩二，写真論集成，岩波現代文庫，2003
- 文 4) 平田柳，建築写真の視覚的表現性に関する研究—青木淳の建築作品の写真の比較を通して—，日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）2017 年 8 月，pp371-372，2017
- 文 5) 杉村駿輔，建築雑誌における冒頭写真の表現の変遷に関する研究，令和 2 年度 日本建築学会 近畿支部研究発表会，pp513-516，2020
- 文 6) 深谷亮太，塩崎太伸，加藤千佳，尾花日向我，SNS の投稿写真からみる保存・改修建築の撮られ方と改修前後での変化，日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿），pp613-614，2023
- 文 7) 久保井聡，永瀬智基，久野紀光，建築誌における現代日本住宅作品の建築写真の掲載順，日本建築学会計画系論文集 第 80 巻 第 717 号，pp2691-2699，2015
- 文 8) 北村円香，日本における監獄建築の仕様分析—記念写真集の内部空間写真を分析対象として—，2022 年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ，pp238-240，2023
- 文 9) 高橋佳徳，建築写真における公立文化施設のホワイエ空間の室内意匠に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集（北陸），pp253-254，2019

